

WWWを利用したドイツ語入門講座

2X-6

川村 陽子 冠谷 大 伊藤 小琴 前川 仁孝 伊與田光宏

千葉工業大学

1.はじめに

現在、WWWが広く普及し語学教育の分野にも応用されている。WWW上の教材は、学習者の時間的、場所的制約にとらわれずに利用可能であり、配布が容易というメリットがある。しかしながらWWW上では英語教材が圧倒的に多い。反面、英語圏以外のサイトから情報を得る機会も増えつつある。技術系の学生がそれらを参照しようという場合は第2外国語の授業知識では十分とは言えない。授業内容もインターネットとほとんど関連がない。従って、ギャップを埋めるべき知識を補っていく必要があると思われる。

そこで本研究ではドイツ語を取り上げ、インターネットを題材とした入門用教材をWWW上に試作する。

2.システム提案

ホームページに関するドイツ語表現も必要な知識であるが、文法も基本的なものは身につけておく方が理解度も深まると思われる。本システムでは、その表現を利用して文法も解説を行うため以下のような特徴を備える。

- ◎学習内容ごとにレッスンを組む
- ◎各レッスンごとにトピック（テーマ）を設定
- ◎単語や例文に英語との対応を表示
- ◎トピックに関連したドイツ語サイトへリンクを張る
- ◎各レッスンの最後に練習問題を出題

また、教材のメイン画面ではブラウザの文字コードの設定について注意を促しておく。練習問題はJavaScriptで確認、正答の表示を行う。

3.教材の流れ

1レッスンは以下のような流れで進行する。

- ①トピック、学習内容の提示
- ②文法事項の解説
- ③関連ホームページへのリンク
- ④練習問題の出題

①でトピックを提示し、話題に沿って②文法事項の解説に移行する。③関連ホームページへのリンクではリンク先のページ内容を簡単に説明しておき、ページは別ウインドウに表示可能である。④練習問題ではヒントとして②が別フレームに表示される。

4.実行例

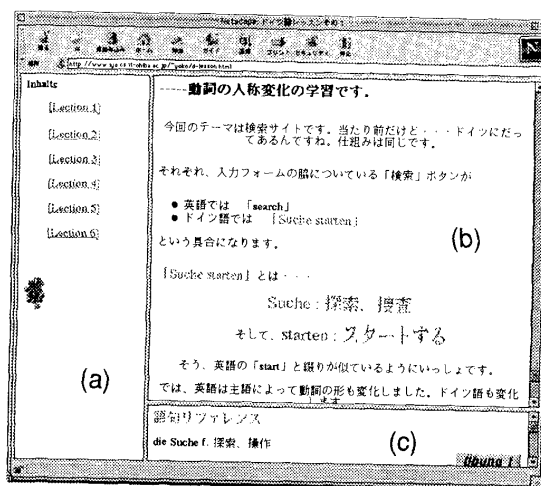


図1 画面例

図1は1レッスンの画面である。フレーム(a)は目次に使用している。フレーム(b)は学習フレームでトピック提示や文法説明などを行う。フレーム(c)には(b)に出現する単語の訳を、練習問題の際には文法事項の表示をする。

5.おわりに

本研究では、技術系の学生を対象としたドイツ語教材をWWWを利用して試作した。用途が絞られているため知識を効率よく身につけることが可能となった。今後の予定では、学習者管理機能や読み上げ機能の付加などがあげられる。また、トピックのバリエーションを増やすことにより充実化をはかる。